

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音を楽しむ

<テーマの設定理由>

子どもたちはピアノや楽器遊びがだいすきである。また自由遊びでコンサートやライブごっこをしている。こどもたちが音をお身近に感じ、発見し、さらにプロの演奏をきいて、音を表現することの楽しさを探求したい。年少組ではクラス活動でピアノの音を聞き分け「歩く・スキップ・おやすみ」などのリズム遊びを楽しんでいた。絵本をきっかけに楽器以外にも身近にいろいろな音があることを知り、音で表現することの楽しさを深めていきたい

2. 活動スケジュール

4月～ピアノの音に合わせて、「歩く・スキップ・おやすみ」のリズム遊び

7月 年長組のこどもたちにコンサートでなにがしたいかきいてみる。

7月 サマーコンサート、ヴァイオリン、ピアノ体験

自由遊びでの楽器づくりやいろいろな楽器の体験

9月 「あめのひのえんそうかい」の絵本導入。軒下から落ちる雨だれの音を聴き、音の違いがあることに気づく

帰りの集まりで毎日違う楽器を一人ずつ鳴らし、いろいろな音を楽しむ。

11月・園内の音探し探検

・「かみのおとどんなおと？」の絵本の読み聞かせ。紙にもいろいろな音があることを知る

・オータムコンサート

・いろいろな楽器体験をしてきた年長組にディスクマットを紹介する。

・楽器作り・・・どんぐりを使ってマラカスを作る

12月・「ドレミの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」の曲に合わせて楽器を使って演奏してみる

1月 楽器あてクイズ

2月 年中組でコンサートについてきいてみる。

2月 ウィンターコンサート

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり等を記載してください。

4月 年少組ではピアノの音を聞き分け、音に合わせて体を動かし表現遊びを楽しむ

7月 年長ぐみにコンサートが今年もあるという事を伝え、なにがしたいかきいてみる。

「楽器をひいてみたい」「ヴァイオリンひきたい」「ピアノも」「おおきいやつも（チェロのこと）」と声があがる。演奏家の方に相談し、サマーコンサートのあと、ピアノとヴァイオリンの体験を行った。感想には「緊張した」「うまくひけるとおもわなかった。」「おとがでてうれしい」「またやりたい」「ほかの楽器もやってみよう」という声があったので、園にあるいろいろな楽器を体験できるよう環境をととのえた。また遊びのなかで自分で楽器を作れるような環境を準備した。

「楽器屋さんをしたい」という声があり、ヴァイオリンと段ボールでグランドピアノづくりをした。実体験があるので細部までつくろうとしたため、楽器屋さんをつくるまでいかないが、小さい子にヴァイオリンの弾き方を演奏家の人から教わったようにおしえてあげ、ライブをしている友達と一緒にコンサートをして盛り上がった。

9月・年少組では雨の日に絵本を読み聞かせ、準備しておいたバケツやボールなど様々な容器を軒下に置き、落ちてくる雨だれの音を聴いてみる。容器によって音が違うことや、「水がいっぱいだとちがうね」と雨が溜まる前と溜まってからでは音が違うことに気づく子もいた。また自然の音が心地よく、その場に座り込み聴き入っている子もいた。

毎日帰りの集まりで楽器を準備し、一人ずつ順番に鳴らすことをしていろいろな楽器に触れる機会をつくった。レインスティックではどんな音がしたか聞いてみると「みずのおと」「かぜ?」「うみのなみのおと」などの答えが返ってきた。シンバルを使った時、一人の子がスティックを使って叩いてみると「あれ?おとがちがうよ」と叩く位置や叩くものが違うと聞こえてくる音が違うことに気づいた。子どもによってそれぞれ叩き方が違い、力の加減できれいな音に感じたり、うるさく感じることもあり、少しずつ叩き方を工夫する子も出てきた。継続して楽器遊びをしていくと「きょうはどんながっき?」と楽しみにする子もでてきた。

11月・年少組の音探し探検ではスティックを持って園内を一周し、壁や棚・机やタオル掛けなどいろいろなところを叩いてみてどんな音がするか確かめてみる。普段ではなかなかしない活動に子どもたちは興味を示し、嬉しそうにいろいろなところを叩いて音の違いを感じていた。クラスに戻り、どこの音が好きだったか話し合ってみると「かべのおと」「げたばこのおと」などさまざまだった。

- ・「かみのおとどんなおと？」の絵本を使った活動では、張りのある大きな紙と新聞紙を準備し、紙を揺らしたり丸めたり、クシャクシャにしたり切ったりして、自分たちでも絵本の中で表現されている音がするか試してみる。
- ・楽器作りでは缶やペットボトルなどの容器を準備し、お散歩で拾ってきたどんぐりを使いマラカスを作った。自分の好きな容器を選び、どんぐりも好きな数を入れ作る。どんぐりをたくさん入れる子もいれば、2,3個でよい子もいて、みんなが出来上がってから一人ずつ音を聴いてみると、同じ音がなく自分だけの楽器を作ることができた。
- ・オータムコンサート
 - ・年長組ではコンサートを経験し、また楽器に対する意欲が高まった。足で鳴らす楽器があると紹介したところ、非常に興味を持ち、ミュージックパットと触感ディスクをつかってリズム遊びを楽しんだ。「おもしろいがっきだね」「ふしぎなきがする」感想がたくさんでた。
- 12月・年少組ではプロの方たちの演奏を聴き、自分たちも楽器演奏をしてみたいという気持ちになり、ベルを使い“ドレミの歌”を、曲の中に出てくる擬音に近い音のする楽器を使い“あわてんぼうのサンタクロース”を演奏し音楽を楽しんだ。
- 1月・つい立を使い楽器が見えないようにし、なんの楽器の音か当てるクイズをする。木で作られた楽器で音が似たような楽器を選ぶと、初めは聞き分けることができなかつた子も、音の違いが分かるようになり当てることができるようになった。
- 2月・年中組にコンサートがあることを伝え、したいことをきいてみた。「がっきをやりたい」「ねんちょうがやったのやりたい」とトーンチャイムをやりたいという声があがる。演奏家のひとと相談し、一緒演奏することになる。憧れの年長組がしていたことを自分もできることでとてもはりきっていた。
- ・ウインターコンサート
 - 年少組ではウインターコンサートでは、曲の中で何が出てきたか聞いてみると「ねこがでてきた」「おばけがでてきた」と、楽器で表現された音から想像を膨らまし音楽を楽しむという経験ができた。





4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

年少組では日ごろからピアノの音に合わせて歌を歌ったり、リズム遊びをしたり、手遊びをして音楽に触れ楽しんでいましたが、今回の活動のきっかけとなる絵本があったこともあり、子どもたちと身の回りにある音を探し、いろいろな音があるということを知る良い経験となった。

毎日いろいろな楽器を準備することで、子どもたちが「きょうはどんながっき？」と楽しみにするようになり、たくさんの楽器に触れ音を楽しむ機会もできた。園内の音探し探検では、楽器とは違う音が身近なところにたくさんあることを知ることができ、子どもたちと一緒に保育者の私も新たな発見があって楽しい活動となった。

またプロの方たちの演奏を聴き、普段では聴くことができない楽器の音に触れたり、楽器で表現することの楽しさを子どもたちが感じることで、自分たちもやってみたいという気持ちにもつながった。

雨の日に雨だれの音を聴き、「いいおとだね」という子どもの声が印象的で、自然の音に耳を傾け、心で感じる心地よさを子どもと一緒に味わうことができたことも貴重だった。

今後も子どもたちとさまざまな音を探し、身体で音を感じ表現することの楽しさをたくさん経験することができるような活動を取り入れていきたいと思う。

年中、年長組では昨年のコンサートの経験もあり、やってみたいことが自然と子どもたちからでてきた。子どもたちは実体験があると興味がひろがり、さらに積極的に活動していくことが実感できた。プロの方のコンサートは子どもたちにとってはとても良い刺激となり、またともに楽しむものとなって音を楽しむ探求につながり、そのことは主体的なあそびにつながった。